

環研センターnews

第4号

地球温暖化防止講座開催

1月31日、山形環境大学～地球温暖化防止講座の第1日目を開催しました。

始めに、県環境企画課から、H12年度の県内温室効果ガスの排出量について、特にその9割を占める二酸化炭素がH2年度に比べ伸びており、産業部門より民生部門(家庭・業務)の排出量が多いこと、また、地球温暖化防止活動推進員の委嘱、地球温暖化対策地域協議会の設置、県地球温暖化防止活動推進センターの指定などの推進体制構築、県地球温暖化防止活動推進県民会議(仮称)の設置、21世紀を担う子どもたちを対象とした環境学習の推進に取り組むなどの説明がありました。



次に、「地球にやさしい豊かな生活を」をテーマに、県及び高畠町環境アドバイザーの橋本聡さんのお話を聞きました。地球温暖化を防止するには、まずグリーンコンシューマを増やすこと。グリーンコンシューマの増加が経済を変え、政治を変え、環境を守ること、また、環境に配慮した生活・価値観は、今までの経済中心の価値観では不便・無理と感ぜられるかもしれないが、得でもあり、豊かと思ぜられる生活であることなどが話をされました。

グリーンコンシューマとは…

日々の買物をする時に、環境のことを考えながら商品や店を選ぶ人のこと

イバラトミヨ特殊型の保全に向け水質の基礎調査をしています

東根市羽入地区と天童市高木地区に生息している魚イバラトミヨ特殊型は、遺伝学的に最古の系統で、学術的にも貴重とされていますが、環境省レッドデータブックで絶滅の恐れの高いランクにあり、生息地は県の天然記念物に指定されています。

羽入地区では、地元住民等が「大富イバラトミヨを守る会」を結成し、草刈や清掃、生息数確認等を行っています。保全に向けてより専門的な対策が必要としています。

そこで、当センターは、保全対策の検討に必要な水質に関する基礎データとして、小見川と流入する湧水のpHやアンモニアなどのイオン濃度を測定しています。

今後は、さらに詳しく生態調査などを行っていく予定です。

イバラトミヨとは…

体長は5～6cm前後。氷河時代からの生き残りといわれ、年間を通して水温10～15度前後のきれいな川や沼にしか住めない。

繁殖期になると、水草を用いてゴルフボール状の巣を作り、子どもが卵からふ化、巣立つまで育児を行うのが特徴。

平成15年度ガンカモ科鳥類の生息調査結果について

湿地の保全や鳥獣保護区の設定等に活用するため、鳥類の分類に詳しい皆様の協力を得て、ガンカモ・ハクチョウ類の数を調べています。県内では、1月15日前後に314箇所調査が行われました。当センターは、県内の調査結果を取りまとめています。

ハクチョウ類は、酒田市スワンパークで9,550羽と過去最高となり、県全体でも16,345羽と過去最高を記録しました。種類別に見ると、コハクチョウが9,585羽(対前年2,792羽増)と大幅に増加しました。

ガン類も大幅に増加し、昨年の2倍の332羽が確認されています。

このように増えたのは、積雪が少なく、採餌が可能だったことから、特に庄内地方の飛来数が増加したためではないかと考えています。

カモ類は、ほぼ昨年並みの121,948羽を確認しています。

★食品衛生・環境衛生研修大会で発表してきました★

1月30日に山形市で開催された第48回食品衛生・環境衛生研修大会において、当センターの2名が発表をしました。この大会は、県の食品衛生と環境衛生に関わる職員の研修会であり、毎年開催されています。

【近年の光化学オキシダントの状況について】

光化学オキシダントとは・・・

大気中の汚染物質が紫外線を受けて生成する酸化性の強い物質の総称。目や呼吸器の粘膜を刺激したり、植物被害を発生させる。

光化学オキシダントに係る環境基準を達成したのは全国1,195観測局のうち、わずか6局だけです。県内では7局で監視していますが、どの局も環境基準は達成されていません。また、昼間日最高値の年平均はやや増加傾向、環境基準を超える日数も増加傾向にあります。今後とも注意深く監視を続けていく必要があります。(会田)

【硝酸性窒素による地下水汚染について】

汚染の見つかった東根市神町地区について、農林部局や市役所など、多数の関係機関の協力を得て集めたデータから、地下水の汚染原因は肥料や生活排水など複数であることがわかりました。(木村)



(左：会田・右：木村)

環境基準とは・・・

人の健康を守る上で維持されることが望ましい基準。「環境基準の達成」は、年間を通して基準を下回ること。

環境学習を進めるためのパートナーシップ作りを考えよう！ ～工房やまがたワークショップ参加者募集～

【日時】平成16年3月6日(土)10:00～15:30

【場所】環境科学研究センター環境情報棟セミナー室

【対象】環境学習に関心のある方など 成人25名程度

【内容】地域における環境学習の課題を明らかにし、地域・学校・環境学習施設、環境保全グループ、行政が果たす役割や連携の仕方をワークショップの手法により学びます。

【講師】NPOエコ・コミュニケーションセンター 理事 小川 達己 氏

【その他】筆記用具、昼食の準備(外出可能)をお願いします。



(佐藤)

【問合せ先】0237-52-3124

★水辺の生きもの保全フォーラムを開催します★



(伊藤 & 佐藤)

【問合せ先】0237-52-3124

【日時】平成16年3月13日(土)12:45～16:15

【場所】環境科学研究センター環境情報棟セミナー室

【内容】

(1)基調講演「ため池の生態系と保全」(仮題)

講師 国立環境研究所 生物多様性研究プロジェクト多様性機能研究チーム
総合研究官 高村 典子 氏

(2)パネルディスカッション「水辺の生態系を考える」

コーディネーター 永幡 嘉之 氏(山形県希少野生動物調査委員)

パネラー 本間 正明 氏(月光川の魚出版会代表)

沢 和浩 氏(山形県野生植物調査研究会会員)

武浪 秀子 氏(西川町立大井沢自然博物館学芸員)

鈴木 貞悦 氏(水土里ネット村山東根理事長)

★ミスター皆川の環研センター紹介★

当センターでは、今年度から新たにダイオキシン類の分析業務を行っています。

ダイオキシン類の分析を行うに当たっては、周辺環境の汚染防止及び分析者の安全と健康に万全を期しています。

このため、当センターでは特別に管理された施設(ケミカルハザード施設)で分析を行っています。

このコーナーでは、次号以降「ケミカルハザード施設」の内容について紹介していきます。



ケミカルハザード施設の主、環境化学部